

令和4年度 学力向上プラン

学校名 中央区立月島第二小学校

学校の教育目標

心の豊かな子ども・よく考える子ども・たくましい子ども

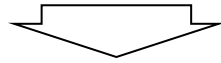
教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- ・基礎学力を確実に身に付けさせるとともに、一人一人の習熟度に応じて学力を伸ばす指導を行う。
- ・児童自ら課題を発見し、主体的に問題を解決する力を身に付けさせる。

令和4年度「学習力サポートテスト」や令和4年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国 語	6年生の学習力サポートテストでは、「言葉の特徴や使い方に関する事項」のうち、「漢字を書く」問題の正答率が区平均に比べて8.6ポイント下回っている。また、「我が国の言語文化に関する事項」では漢字の由来について出題されたが、正答率が20.7ポイントと低い。漢字を正確に書く技能や、漢字の由来についての理解が不足している。	漢字の由来（象形・指示・会意・形声）を学習した後、日頃使う漢字の成り立ちを知る機会が少なかったと考えられる。新出漢字の学習時や、まとめの学習などで正確に書いたり、成り立ちを調べて理解を深めたりしていく。
算 数	5・6年生の学習力サポートテストでは、全体的に区の平均よりも下回っている。特に、5年生では「データの活用」が低くグラフの読み取りや活用する力が不足していることがわかる。また、6年生では「図形」の領域が区平均より、3.3ポイント下回っている。	どの領域も区の平均を下回っていることから、学習の基礎基本の定着が足りないことが主な要因である。授業で学んだことを反復し、活用問題にも対応できるようにする。
社 会	5・6年生の学習力サポートテストは、どの領域も区の平均より、1.8～6.9ポイント下回っているが、特に5年の「自然災害」や6年の「国土の自然」などの様子を理解する力が不足している。	自然災害や国土の自然について、児童にとって身近にとらえることが難しく、知識として定着しづらいことが考えられる。また、時事ニュースなどを取り上げながら、興味関心を高めていく。
理 科	5年生の学習力サポートテストでは、「思考・判断・表現」の観点の区平均に比べて4.8ポイント下回っている。また、「自然の中の水」の問題の正答率が区の平均に比べて8.9ポイント下回り、全国平均を6.5ポイント下回っている。活用の問題について、結果を正確に理解する力が不足している。	自然事象について、観察や実験を行う環境が少ないことが、「思考・判断・表現」が低い要因と考えられる。結果を丁寧にまとめる時間や、復習の時間が他教科と比べて少ないことが考えられる。デジタル教材を活用しながら、疑似体験などを行っていく。

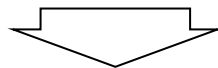
英 語	6年生の学習力サポートテストでは、「日常会話の理解（聞く）」問題において、正答率が区の平均よりも8.7ポイント下回っている。自己紹介場面での名前のつづりや好きなもの、家族紹介の場面での父と母のできることについて、正確に聞いて理解する力が不足している。	学習内容の復習やまとめの機会が少なかったことが、定着が足りない主な要因として考えられる。年間指導計画を見直し、学習内容の復習やまとめの時間を確保する単元再設計をしていく。
体 育	都の体力調査では、5年生女子で握力は区平均を2.0ポイント、反復横とびでは3.9ポイント下回っている。また、5年生男子で20mシャトルランは区平均を10.0ポイント下回っている。6年生女子で区平均を6.8ポイント下回っている。この傾向は高学年以降の男女に見られ、握力、俊敏性、持久力が課題である。	運動をする機会が少なくなっていることや、休み時間に体を動かして遊ぶ児童が減っていることが考えられる。体育の授業で縄跳びを軸に、様々な動きのある運動を取り入れることで、持久力の向上を図っていく。
学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	令和5年度の学習力サポートテストで、区平均を上回るようにする。特に、「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「我が国の言語文化に関する事項」など、言葉の学習が定着するようにする。
	算数	令和5年度の学習力サポートテストで、区平均を上回るようにする。課題に対して筋道を立てて考え、まとめられるようにする。
	社会	令和5年度の学習力サポートテストで、全領域において区平均を上回るようにする。社会的事象を自分の生活と関連付けて考える力を伸ばしたい。
	理科	令和5年度の学習力サポートテストで、全領域において区平均を上回るようにする。実験結果をまとめる時間を十分に確保することで、事象の理解を深められるようにする。
	英語	令和5年度の学習力サポートテストで、区平均を上回るようにする。特に、正確に英語を聞いて理解する力が定着するようにする。
	体育	固定遊具を使った運動を取り入れるとともに、素早い動きが必要な運動を計画的に取り入れる。また、持久力を高めるために本校の特色である縄跳びを通して、体力の向上を図る。縄跳びについては、全校児童の2割が二重跳びを50回できるように育成を目指す。
② 授業改善		・児童の思考力・判断力・表現力をバランスよく育成する。 ・児童の「学校評価アンケート」で「授業の内容がよく分かる・分かる」と回答する児童95%以上を目指す。 ・保護者の「学校評価アンケート」で「分かりやすく楽しい授業をしている」ことに概ね満足と回答する保護者90%以上を目指す。
③ 家庭との連携		・家庭との連携を深め、児童の学力向上に向けた教育活動への理解と協力のもと、より高い学習成果を目指す。 ・保護者の「学校評価アンケート」で「通知表等を通して児童の学力を適切に評価している」ことに概ね満足と回答する保護者90%以上を目指す。
④ 体力向上		・体力調査の結果を個々の児童が上回ることできるようにする。特に全身持久力の向上を目指す。 ・児童の「学校評価アンケート」で「自分の体力づくりに取り組んでいる」ことにできたと回答する児童80%以上を目指す。



【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国 語	復習プリントやドリルパーク等を活用し、個別の学習状況に合わせて反復させることで定着できるようにする。
算 数	朝学習や放課後さんすう塾等で、復習プリントや東京ベーシックドリル等活用し、反復させることで定着できるようにドリルパークを積極的に活用する。
社 会	児童が興味・関心をもてるように掲示物を貼り、都道府県や地形、世界の国土等覚えられるようにする。また、既習事項も確認できるようプリントやドリルパークを活用する。
理 科	単元末に、学習のまとめ問題のプリントに取り組んでいく。また、年間を通して、家庭学習にドリルパークの理科の学習を積極的に活用するとともに、デジタル教材を活用しながら、疑似体験などを行っていく。
英 語	単元後の振り返りを共有し、学習の定着を図る。また、既習事項をふまえた学習課題や、既習事項の壁面掲示などをして復習の機会を確保する。
体 育	体育の準備運動で固定遊具を使った運動や、持久力を高める縄跳び活動を取り入れることで、体力の向上を図る。また、集会や縦割り班活動等、特別活動でも東京都の体力調査の結果を踏まえ、強化すべき体力を焦点化して、体力向上のための環境を整える。
②授業改善	
取組Ⅰ	算数科を中心とした校内研修「児童一人一人が分かった!できた!!楽しい!と実感できる授業づくり」を通して、互いの授業を見合ったり、改善案を話し合ったりして、授業力の向上を目指す。
取組Ⅱ	算数科では、年間を通して単元ごとにレディネステストを行い、コースガイダンスに基づいたクラス分けをすることで児童の習熟度に合わせた指導を行う。課題が見られる児童には、月に2度の放課後さんすう塾で補充的指導を行う。
取組Ⅲ	若手教員の授業力向上、OJT研修を月に一回実施する。若手教員が行った授業について研究協議を行う。主幹・主任教諭でグループを作り、各グループが主催となり様々なテーマによる研修会を行う。
③家庭との連携	
取組Ⅰ	年に2回の個人面談や保護者会等で、児童の学習状況や努力の様子、課題等を伝え、保護者と共通理解を図る。学習状況を伝える際には、単元毎のテストや学校生活満足調査の結果など根拠となるデータを示し、具体的に説明する。
取組Ⅱ	月に一度、学校便りや学年便りで、学校や学年の取組や学習内容を伝えることに加え、必要に応じて Google classroom を配信したり、こども安心安全メールを活用したりして、家庭と連携をもれなく行う。
取組Ⅲ	タブレット端末を活用した宿題配信を週に1回以上の割合で行い、家庭との連携や学習の習熟を図る。

④体力向上	
取組Ⅰ	固定遊具を使った運動や体全体を使った投動作、持久力を高めるマイスクールスポーツの縄跳び活動、体を大きく動かす遊び等を通して、握力、持久力、基礎的体力の向上を目指す。また、低学年から竹馬や一輪車を使って遊ぶことを通して、バランス力の向上を目指す。
取組Ⅱ	縄跳び活動に特化し、年10回のなわとび検定を行い、行事・なわとびコンクールを行い、練習の成果を示す場を作る。また年2回のなわとび講習会を受けることで、短縄の技術や体力、運動能力の向上を目指す。長縄週間をもち、学期ごとに学級で長縄の記録を取る。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	国語	復習プリントやドリルパーク等を活用し、個別の学習状況に合わせて反復させたことで、多くの児童は定着することができた。	【課題】 日常の生活の中で活用することが課題となった。文章を記す中で、既習漢字が使えない児童が見られた。 【解決策】 引き続きタブレットと併用して、ノートやワークシートの活用をしていく。文章を書ける児童を育てるために、意図的に書かせる指導を行う。また、漢字を書く機会を日常で増やしていく。
	算数	朝学習や放課後さんすう塾等で、復習プリントや東京ベーシックドリル等活用し、反復させることで少しずつではあるが定着することができた。	【課題】 どの学年においても、知識・技能の学力の向上は図れたが、思考力における課題が見られた。 【解決策】 算数科を中心とした校内研究「児童一人一人が分かった！できた！！楽しい！と実感できる授業づくり」を通して、互いの授業を見合ったり、改善案を話し合ったりして、授業力の向上を目指す。

	社会	児童が興味・関心をもてるように掲示物を貼り、都道府県や地形、世界の国土等、少しずつではあるが興味をもち始めた。	【課題】 自然災害や国土の自然について、児童にとって身近にとらえることが難しく、知識として定着しづらかった。 【解決策】 時事ニュースなどを取り上げ、興味関心を高めていく。
	理科	年間を通して、家庭学習にドリルパークの理科の学習を積極的に活用させることで定着することができた。	【課題】 自然事象について、観察や実験を行う環境が少ないことから、「思考・判断・表現」が課題となった。 【解決策】 単元末に学習のまとめ問題のプリントに取り組んでいく。また、年間を通して、家庭学習にドリルパークの理科の学習を積極的に活用するとともに、デジタル教材を活用しながら、疑似体験などを行っていく。
	英語	既習事項をふまえた学習課題や、既習事項の壁面掲示などをして復習の機会を確保してきたことで、少しずつではあるが、既習事項の定着を図ることができた。	【課題】 英語を正確に聞いて理解する力が課題となった。 【解決策】 単元後の振り返りを共有し、学習の定着を図っていく。また、既習事項をふまえた学習課題や、既習事項の壁面掲示などをして復習の機会を確保していく。
	体育	教科担任制を実施してきたことで、学年共通の授業展開を行うことができた。	【課題】 ボールを使った運動や、ゲームの学習はどの児童も興味関心をもって参加する姿が見られたが、器械運動やの学習において、消極的な児童が多く見られた。 【解決策】 どの単元においても、児童が興味をもって参加できる授業展開を行っていく。また、体育科における研修を積極的に取り入れていく。

②授業改善	児童の思考力・判断力・表現力をバランスよく育成することができた。	【課題】 ICT を取り入れている教科が偏っていた。 【解決策】 引き続き若手教員の授業力向上、O J T研修を月に1回実施する。若手教員が行った授業について研究協議を行う。主幹・主任教諭でグループを作り、各グループが主催となり様々なテーマによる研修会を行う。また、どの教科においても積極的にI C Tの活用を行っていく。
③家庭との連携	年2回の個人面談や保護者会等で、児童の学習状況や努力の様子、課題等を伝え、保護者と共通理解を図ることができた。	【課題】 日頃から家庭学習の状況を踏まえ学習課題を共有し、家庭との連携を密にしていく。 【解決策】 学習状況を伝える際には、単元毎のテストや学校生活満足調査の結果など根拠となるデータを示し、具体的に説明する。また、タブレット端末を活用した宿題配信を週に1回以上の割合で行い、家庭との連携や学習の習熟を図る。
④体力向上	本校の特色である縄跳びを通して、体力の向上を図ることができた。	【課題】 運動をする機会が少なくなっていることや、休み時間に体を動かして遊ぶ児童が減っている。 【解決策】 体育の準備運動で固定遊具を使った運動や、持久力を高める縄跳び活動を取り入れることで、体力の向上を図る。また、体力調査の結果を踏まえ、強化すべき体力を焦点化して、体力向上のための環境を整える。